

タイ 2019 年総選挙における軍事政権の御用政党 ——バンコク都での議席獲得要因に関する考察——

泉 向日葵

平成 30 年 入学

派遣先国：タイ国

渡航期間：2019 年 8 月 31 日から 2019 年 9 月 25 日

キーワード：タイ、選挙、軍事政権

対象とする問題の概要

2019 年 3 月 24 日、タイで約 8 年ぶりの総選挙が実施された。2014 年以降の軍事政権から、選挙結果に基づく政権および首相の復帰となるはずであった。しかし結果は、選挙に敗北した親軍派政党が政権を握り、軍政トップであったプラユットが首相に返り咲いた。背景には、2017 年憲法による大政党の議席を目減りさせる仕組みや上院任命制による軍隊側議員の議席確保といった制度改革の実態がある。したがって選挙を実施しても、権力者が工作を行うことにより、民主化が妨げられていることがタイ政治における問題である。タイでの選挙は 1932 年の立憲革命により開始され、軍事政権やクーデタを経て 1970 年代から再び重要視された。しかし 2006 年以降、選挙結果が憲法裁判所やデモ隊により、意図的に無視されるようになった。その間に選挙勝利のための準備期間を確保した軍隊は、多様な政治工作を行い、ようやく選挙結果という正当性に基づく政権を執ることに成功した。

研究目的

本研究の目的は、軍隊が選挙結果に基づいて政権を掌握した今回の選挙の意義を、これまでのタイの民主化の流れを踏まえつつ解明し、今後のタイ政治に与える影響を考察することである。2019 年選挙では、2001 年以降選挙で大勝利を収めていたタクシン派政党である Pheu Thai (以下 PT) が、第 1 党であったものの大幅に議席を減らした。また軍政の御用政党である Palang Pracharath (以下 PPRP) は、選挙区および比例代表の双方で議席を獲得し第 2 党となった。軍政による制度改革は、確かに PPRP の政権掌握に貢献した。しかし PPRP 候補者の選挙区での当選は、改革の影響だけではない。よってフィールド調査では、バンコク選挙区における PPRP 候補者の勝因を検討する。

フィールドワークから得られた知見について

2011 年選挙ではバンコク県内の 33 選挙区を民主党と PT の二大政党が独占した。一方 2019 年選挙では 30 選挙区中 12 議席を PPRP が獲得し、PT と新党である Future Forward Party (以下 FFP) が 9 議席と後に続いた。PPRP は 2011 年の民主党第 1 党選挙区から 9 議席、PT の選挙区から 3 議席を獲得した。過去数回登場する軍政の御用政党のうち、バンコクで第 1 党となったのは不正操作による 1957 年を除いて史上初である。

2019年選挙ではなぜ PPRP が最も多くの議席を獲得できたのか。

議席獲得要因の一つ目は、PPRP による他政党所属議員や地方政治家の引き抜きである。2011 年は民主党が勝利した 15 区では、民主党から引き抜いた Chawwit Wiphusiri が当選した。さらに 1、4、8、17、30 区でも、バンコク都議会議員や区議会議員から引き抜いた候補者が当選した。有力者の引き抜きによる個人人気へのあやかりは、議席獲得の戦略として成功したと言える。しかし引き抜きだけでは、2、6、7、13、19 区での新人候補者の当選を説明できない。新人の当選には個人の実績がないため、政党への支持が必要である。PPRP が支持を得ることに成功した二つ目の要因は、政府が 2015 年から実行している Pracharath 政策である。2017 年 10 月から実施された welfare card system では、収入が 10 万バーツを下回る個人にカードを通じた給付金の配布が行われた。アジア開発銀行の推定によると、2019 年 3 月時点で受益者はタイ国民 1400 万人に上った。バンコク都内では、プロジェクトの垂れ幕が掲げられた店やカード所有者歓迎というセブンイレブンの張り紙およびバスの看板等が見かけられる。つまり Pracharath 政策は成果を出すことに加え、同様の文言を使った PPRP の政党名を宣伝することに貢献したと考えられる。したがって、バンコクにおける PPRP 候補者の当選には、個人有力者の引き抜きによる個人人気へのあやかり、政策を通じた政党の宣伝という PPRP の戦略が大きく影響している。

反省と今後の展開

本研究では、バンコク選挙区での PPRP 候補者の勝因を模索した。今回は 2 つの要因を記述したが、この 2 つで勝因を結論付けるには十分ではない。今後は 2011 年よりさらに過去の選挙とも比較し、他要因の追究に当たる。過去の選挙においても、seri manangkhasila(1957)や Samakheetham(1992)といった PPRP 同様の御用政党が存在していた。したがって、2011 年以前の選挙との比較は必要不可欠である。さらに今回のバンコク選挙区の結果では、民主党の大敗も大きな特徴の一つである。民主党は長い政党の歴史において議席の増減が激しいが、バンコクで議席を 1 つとして獲得できない事態は深刻である。民主党大敗の要因を検討することもまた、これからの課題である。今後の展開としては、バンコク選挙区の結果を分析することから、2019 年選挙の意義と今のタイ政治に与える影響を考察する。



写真1 : バンコク市内の Pracharath 政策による welfare card の垂れ幕



写真2 : anti-corruption museum タクシンの汚職に関する展示